

学友会東京支部だより

南高

発行 和歌山県立南部高等学校
学友会東京支部事務局 〒363-0022
埼玉県桶川市若宮1-8-12-204
TEL・FAX 048-786-3514

第9回南高学友会東京支部総会



小谷 芳正みなべ町長



「校歌斉唱」♪ 雲新しく 力あふれ～



梶本 国勝大阪支部長



令和元年6月16日(日)、第9回東京支部総会を前回と同じ東京ドーム近くの「水道橋グランドホテル」で開催いたしました。

来賓として、本部長の小谷芳正みなべ町長、大阪支部からは梶本国勝支部長がご多忙の中ご列席くださいました。1名の飛び入り参加もあり総勢30名、第7回が42名、第8回が33名に引き続き、今回は前回とほぼ同じ人数が集い、喜ばしい会になりました。



水道橋グランドホテル

総会は11時40分から山寄支部長の挨拶、続いて小谷会長の挨拶で始まり、その後全5議案が承認され、新役員体制で第9期がスタートいたしました。小谷会長の挨拶では、学友会会員の増加を願って今年から、東京に行く卒業生には学友会東京支部、大阪に行く卒業生には学友会大阪支部の存在をアピールくださっているとの話があり、嬉しい応援をいただきました。

12時30分からの懇親会の皮きりは、梶本支部長の乾杯の音頭と挨拶でした。梶本支部長も、大阪支部の会員数が現在約100名ですが、150名への会員数増加を目標として60歳代の開拓を行っていること、また休眠会員に対する会報の扱いが課題とのことでした。

今回もゲストとして、プロ歌手の川島ケイジさんが「メロディ」と「梅の町みなべ」の2曲を熱唱、さらにアンコールに応じて即興で1曲を披露くださり、皆で堪能しました。「梅の町みなべ」は自身が作詞作曲した みなべ町のPRソングで、参加者にそのCDが無償配布されました。セカンドアルバムCD20枚も完売となりました。



恒例のビンゴゲームでは、参加者全員に景品が行き渡り、みなべ町の鹿島せんべいなど懐かしい景品も提供され、楽しい時間を過ごしました。



最後は校歌の斉唱です。皆さん、元気に歌い、閉会となりました。若い参加者や川島ケイジさんが会を盛り上げてくれて大変楽しい会となりました。各テーブルで会話が弾み、懐かしい皆さんに会うことができ楽しいひと時を過ごしました。

会員の年齢がだんだん高くなったため、食事のメニューではステーキと天ぷらが残り、てね寿司も大半が余ったのが残念でした。次回の支部総会では、皆さんがもっと召し上がれるメニューや量を工夫し、喜んでいただけるようにして元気に再会できることを願っています。

(事務局 森下記)



秋のウォーキング

千住宿歴史ウォーク

岩本 佳子 旧姓:富士(埼玉県富士見市 在住)
1961(昭和36)年卒



学友会の散策の案内をいつも頂いておりましたが、私はボランティア活動の都合で先の予定は立てにくく、興味、関心があり、行ってみたいなあと思う場所が企画されていてもなかなか参加ができないでいました。

今回、10月19日(土)の『千住宿歴史ウォーク』は、今度こそはと思って当日、飛び入り参加する予定で支度をしていましたら、夫に「散策は昨日の日付になっているよ。」と言われ、幹事の森下さんに葉書をお出しました。暫くして森下さんよりお電話を頂き、「実は予定していた10月19日の散策は台風で延期となりました。11月16日(土)に改めて行きますので参加をお待ちしています。」とのことでした。このような日にちの間違いというお粗末な前置きがありましたが、散策当日は好天に恵まれ、夫と待望の千住宿歴史ウォークに初参加となりました。



岩本ご夫婦

初めて降りる北千住駅、待ち合わせ場所はどこだろうとあっちこっちをキョロキョロ! やっと待ち合わせ場所を見つけて行くと、そこには顔見知りの方が何人かいらっしゃってホッと一息。みなさんに初参加のご挨拶をし、ボランティアガイドさんのいる場所へ移動。

10時過ぎ、ガイドさんの案内でスタート。テレビの天気予報では今日は小春日と報じられていましたが、歩き出すと日射しが強くなり、照り付ける太陽の暑いこと暑いこと。

歴史ある千住の本田小学校⇒千住防災広場⇒黒川紀章設計の老人保健施設⇒森鷗外旧居跡⇒イトーヨーカ堂創業者が寄贈したイトー児童遊園⇒レトロな大橋眼科と散策。



千住町時代のマンホール



イトー児童遊園



大橋眼科



通称 タコ公園

ガイドさんとお別れした後、街角の小さな公園で昼食となり、参加の方から珍しい食べ物もごちそうになりました。



「千住街の駅」観光案内所

昼食後、地元にお住いの澤野さんの案内で絵馬屋吉田家⇒横山家住宅⇒全国的に整形で有名な歴史ある名倉医院⇒荒川土手(下流には一昨年企画された帝釈天と寅さんと有名な柴又)⇒明治の外科医はここから始まったといわれる清亮寺(ここはかつて徳川光圀の槍かけの松でも有名)等々と案内をして頂きました。



横山家



清亮寺

北千住は江戸時代、日光街道や奥州街道の宿場町として栄えた土地で、表通りから一步裏通り入るとそれと思われる風情があらこちらに残っていました。駅周辺では居酒屋さんのお店も多く、過去と現代の入り混じった昼間の街の顔と、日が暮れてからの違った顔もあるのではと感じました。



槍かけの松



千住宿本陣跡



絵馬屋

散策も終り近くなり、北千住駅前の東京電機大学のカフェテラスで皆さんとお茶を頂き、故郷みなべの話題に盛り上がり時間を忘れる程でした。懐かしい方々にお会いして元気に参加できたことと、旧交を温めることができたことに感謝した晩秋の南高学友会の楽しい散策でした。

ガイドさんの話題豊富な語り口で千住宿の説明をしていただいた約2時間の下町歩きでした。



同級生

西玉 啓子 旧姓:勇惣
(みなべ町徳蔵 在住)
1971(昭和46)年卒

「元気でいてよな!」「ぼつぼつしよな!」

最近、同級生と出会って別れ際の言葉は、決まったようにこんな挨拶になります。私達は南部高校を昭和46年3月に卒業してもう50年近く経つことになります。

高校時代は、クラブ活動に没頭するのでもなく過ごした私は、進学し大阪で教職につきました。結婚を機にみなべ町(その頃はまだ南部川村)に戻ってからも、高校を訪ねたのは子どもの面談のときぐらいでした。その間、何回か同窓会の案内をいただきましたが、その時々自分の都合で出席したりしなかったりでした。

還暦をすぎ、学年全体での同窓会から久しぶりにC、D組の合同で同窓会をやるということになり、事務局としてその一員に加えていただきました。

皆さんの住所を手分けして調べては照合し、全員把握するまでに何回か集まりました。事務局のメンバーも、近くに暮らしていながら普段はめったに会うことがないけれど、こうして集まると自然とこれまでの話になり、歩んできた道のりはさまざまで、それぞれにドラマがあり話はずきません。住所がわからず、つながりがありそうな人に頼み連絡を取ってもらったりして、高校時代はそんな人もいたなあとというくらいのつながりだった人と話をする機会もでき、思わぬ長電話になったりもしました。そうしてようやくほぼ全員の消息がつかめ、案内状を発送、返信を待つばかりになりました。「どれくらい出席してくれるだろうか……。」と気になっていると、事務局のY君から何通届いたとメールが入るようになりました。欠席の中には娘の産守りのためというような返信もあれば、介護や療養中という返信もあって最終的に約半数の参加者になりました。それからは、遠方の人には迎えの方法や宿泊の手配など個々に連絡させてもらったりする中で、また話が盛り上がったりしました。

そんなこんなで当日になり皆を出迎えると、高校時代の面影が残っていてすぐわかる人、名前を聞くまで

全くわからない人もいましたが、始まってみればあの頃に戻って話に花が咲きました。

物静かで話を聞く側だった人がしっかり話していたり、お酒が入ると饒舌になったりとあっという間に時間が過ぎていきました。そして、この同窓会では物足りなくて、女性の参加が少なかったC組だけで翌年またやろうということになり、また事務局に加わらせてもらいました。この時は、もっとゆっくり話せるようにと1泊開催にしました。

37年間の現役の間、同級生を特に意識することなく過ごしてきましたが、現役を退き、こんな機会を得て、同級生とはこんなにも居心地のいいところだったんだと改めて思う今日このごろです。

2回の高校の同窓会に気をよくして、翌年には、中学校の同窓会(私達は旧南部川村に育ちほとんどが幼稚園から共に過ごしてきました)も開きました。そして、卒寿を迎えられた恩師にパワーをいただきました。

「次はいつするん?」「70歳かなあ?!」「毎年してくれんといつ来れんようになるかわからん!」などいろいろな声が耳に入ってきます。出席の返信をいただきながら直前に訃報が届いた人、療養中との返信から喪中はがきが届いたりした人もいて、一人二人減っていく寂しさもありますが、この夏には、「法事で帰省するから集まれる人だけでも集まろうよ。」との声に、それじゃと全員に案内を出したら半数の人が集まりました。入院中の病院から外出許可をもらってきた人もいました。

今、私は、息子の梅畑を手伝いながら、義母の介護、月2回の図書館のお手伝い、公民館活動のコーラス、習字教室、時々孫の世話と忙しく過ごしています。

「元気でいてよな!」を合言葉に。



伝統の製法を守りながら
漬けた梅干が「くめ」なのです。



特選A級
紀州南高梅使用



祖伝の製法を守りながら
漬けた梅干が「くめ」なのです。

毬乙梅
まりおとめ

井上梅干食品株式会社
〒645-0012 和歌山県日高郡みなべ町山内1095-1
TEL. ☎0120-01-2730 FAX. ☎0120-04-2412

東京銀座店 03-6274-6033 中央区銀座5-10-12 東洋ライズビル7F
みなべ店 0739-72-5223 高野山店 0736-56-4774
ホームページ: <http://www.kumaheinoume.co.jp/>



70代の今

齋藤 文子 旧姓:阪本
(横浜市保土ヶ谷区 在住)
1965(昭和40)年卒

長年勤めてきた幼稚園を定年退職して早や10数年たった。
現役時代は、老後のことを考える余裕は全くなかった。日々
仕事に追われ、休日返上ということも度々あった。「えっ 幼稚園がそんなに忙しい？」という声がどこからか聞こえてきそうだが…。

退職直前、「退職したら自由な時間がもてる！」「昼間、明るいときに自由にどこにでも行ける！」そんなことを考えただけで、ウキウキしていたものだ。

さて、退職して10数年たった今、もっとのんびりしていいはずなのに、なかなかじっくりと落ち着いていられない私である。ボランティアと趣味、旅行、定期的な病院通い、健康のための運動やジム通い、孫の保育園迎えや世話など、かなり忙しい。一日、一週間が実に早い。充実しているといえばそうかもしれないが…。

この年齢になれば、付き合いの対象も減らしていかなければ…というところであるが、最近、様々な年齢層の人、いろいろな国の人とかかわりがとても楽しい。

ボランティアの一つ、小学校での本の読み聞かせでは、一生懸命聞いてくれる子どもたちからエネルギーをたくさんもらっている。時々、学校内や家の近くで声をかけてくれる子どもたちもいる。そんなときすごく嬉しい気持ちになる。



小学校の秋のおはなし会

二つ目の絵手紙ボランティア、これはひょんなことから始まった。

数年前、遠い旅先で知り合った方が偶然にも近隣の絵手紙の先生であった。それがきっかけで、絵は苦手だった私が絵手紙を習い始めるようになった。今は月に一度、先生の助手をつとめ、デー ケアー サービスに来るお年寄りに絵手紙を教えている。ほぼ私と同年齢か少し上の人たちであるが、

お手本を見ながら懸命に描いている。「初めてだからどうやって描いていいかわからない。」と言いつつも、出来上がると嬉しそうに、にこっとされる。その喜びを共有できるのが嬉しい。そして、自分にできることを精一杯しようとする姿に励まされる。また、毎月楽しみにしてくれる人たちもいる。

さらにもう一つのボランティアは、8年くらい前に始めた外国人に日本語を教えることである。私にとって今とても楽しいものになっている。最初は、「日本語ってどうやって教えるの？」という感じであったが、養成講座を受け、先輩の授業を見学させてもらったり指導してもらったりしたことで少しずつ分かってきた。私たちが日常何気なく使っている言葉も、人に教えるためには、言葉の分析や文法を知らなければならない。三年間くらいは何時間もかけて教案を作り、それに基づいて提示物を作るなど大変なことであった。もちろん今も下準備にかなり時間がかかっている。夫は時々「よくやるねえ、その歳になって。」と言う。感心しているのかあきれているのか分からないが、私自身は半分楽しみながらやっている。若いときにあまり勉強しなかったせいだろうか。

横浜という場所柄、日本語ボランティアグループは沢山ある。私が所属している「NVG!ほ도가や」は、20数名のボランティア会員で成り立っている。様々な国の人たちとかかわるのは文化が違うので、とても新鮮さを感じ、楽しい。多少なりとも外国の人たちの役に立てればいいなという気持ちである。



日本語教室 皆さんの国のお正月は

教室に来ている人たちの国籍は、中国、インド、ネパール、タイ、ミャンマー、ベトナム、ときには、キルギス、アルゼンチン、イギリス、アメリカ、コスタリカ、モザンビークの人もある。若い人がほとんどである。仕事で来ている人が多いが中には主婦もいる。日本に住んでみた感想を聞くと、街がきれいで便利だということやルールをよく守っている、物価が高いということを言う人が多い。この人たちが少しずつ日本語を上手に話せるようになっていくのが楽しみである。

今 私は、このような様々な人とかかわりがあるからこそ元気でいられるのだと、つくづくありがたく思う。



梅をつつむ贅
「黄金漬」をやわらかな道東産の梅干し布で
つつんだまろやかで旨味豊かな梅干しです。



元祖はちみつ梅
こねつけ
黄ハミ漬
選りすぐりの紀州南高梅とはちみつが
醸し出す、まろやかで上品な梅干しです。

梅
はちみつ

通信販売カタログ・商品のお問合せ、お求めは
フリーダイヤル 0120-197-832 FAX フリーダイヤル 0120-319-515
受付時間 平日/午前8時～午後6時 土曜/午前8時～午後5時
FAXおよびホームページでは24時間、受け付けております。
株式会社梅一番井口 和歌山県日高郡みなべ町西本庄1224
http://www.ume1.com/



墓じまい

木村 允彦 (埼玉県桶川市 在住)
1963(昭和38)年卒



田舎の我が家のお墓は田辺市街と田辺湾を見渡せる山の上の共同墓地にあり、同じ墓地には宗派が違うが叔母の家の墓もある。叔母は他県に嫁いだ一人娘の家で暮らしていたが昨年、享年95歳で旅立った。

叔母が田辺を離れた頃は私の母まだ元気で叔母の家のお墓のお世話をさせてもらっていたが、歳を重ねるにつれだんだん墓参りができなくなる。

母の様子見て帰省した折、代わりにお世話をさせてもらっていたが、昨年の初め従妹より10月に墓じまいをするという連絡を受けた。グループホームでお世話になっている母の様子見を兼ねて帰省し、墓じまいに立ち会った。

墓じまいの前々日、お墓の手入れに出かけた。雑草を抜き、風・雨・陽の光で黒っぽく変色した表土の墓土(赤土)をシャベルでひっくり返し、砕き、フルイでふるい、元の赤土に戻し、水をまき、土を固め、花を取り替える。



3時間ほどの作業だったがこれがラストのお世話かと思うと寂しさがこみ上げてきた。

当日は天候に恵まれ、午後4時過ぎ、線香の煙が漂う中、和尚の魂抜きの読経が始まり、何分間かのお経が終わる。すぐ墓石屋さんの撤去作業が始まり、墓石はアッという間に倒された。

作業の合間に墓石屋さんにこのお墓を今つくったら幾らかかるのかと聞いたら、縁石を入れて450万という。もったいないなあ~と思うが、これも致し方ない選択だ。

骨が埋められていたところはスコップで掘られ大きな穴が空いた。

網元で屈強な漁師だった義理の叔父は太平洋戦争で中国に出征。無事復員はできたが、あの過酷な戦争で身体を痛めたのであろう。帰ってきてからは病気がちで私が小学低学年の頃、33歳という若さで亡くなった。



掘られた墓土を墓石屋さんは眼を凝らし骨を探す、六十数年という歳月、骨は見つからず墓石屋さんはサラシの袋を取り出し墓土を入れ従妹に手渡す。

見ていた私は自分の存在がなくなるような何とも言えない複雑な気持ちが交差。日没近くなり、残りの作業は翌日ということで山を下りる。

翌々日、墓地を訪れるとキレイに整地されており再び何とも言われぬ寂しさが胸に押し迫ってきた。私の家の墓じまいもそう遠くはない……。



酸味のある
しそ漬け梅
【いきな】
塩分8%

ちどり梅



高級梅干し
「慶びの梅酌」
「黒糖の梅」を
格式ある千鳥模様に
詰め合わせました



とろ〜り甘い
スイート梅
【スイートはちみつ】
塩分5%



卸部門



0120-10-3682

〒143-0024 東京都大田区中央6-30-1

株式会社ウメタ東京営業所

<http://www.umeta.co.jp>

お店



0120-10-3504

ばいおうえん
株式会社梅翁園東京直売店

営業時間: AM10:00~PM5:00 お休み: 土・日曜日 祝日

ふとん太鼓、奴行列で新元号を祝う！

杉野 雅子

(田辺市紺屋町 在住)

1967(昭和42)年卒

「まあちゃん！みなべのお祭り見に行かへん？」と、幼友達の加代ちゃん(田辺市新万在住)から電話があり、「行く、行く！行きたい、行きたい！」と即座に返事をする。

高校卒業までは、みなべで聞く秋祭りの音に毎年心を躍らせていた私。長く住んだ東京でもお祭りを楽しみ、女子がお神輿を担ぐ姿に驚きながらも、火消スタイルのような装束で担ぐ姿に少々憧れたこともあった。見物客の中には、抱っこされている赤ん坊までにねじり鉢巻き姿、また猫にも法被(はっぴ)を着せて一緒に楽しむ東京人の粋な姿に目を見張った。

鹿島神社の例大祭は10月15日と決まっていたのが、現在は毎年10月第3日曜日になり、令和元年のお祭りは10月20日に執り行われた。

当日のお昼過ぎに、私と加代ちゃんはみなべに向かい、馬場で久々に見るお祭り風景の幟、神輿、獅子舞等に興奮。ちょうど、埴田の氏子が担ぐ神輿が鳥居前から国道に続く道を元気いっぱい練り歩いている時で、国道と鳥居前を行ったり来たりして中々お宮入りしない！

片町で生まれ育った私は、家の前で見た獅子舞がお正月の時なのか、それとも秋祭りの時なのか記憶が曖昧であったが、久しぶりに見るお祭りで、私の記憶にある獅子舞は秋祭りの時のだと確認できた。4頭もある片町の獅子舞が、祭囃子に合わせて舞い踊る姿に元気をもらい、また可愛い子供神輿に見とれ、各地区の神輿や獅子舞の宮入りを見て、秋祭りを大いに楽しんだ。なかでも、神社から「新元号(令和)を祝って参加してもらえれば」という掛け声により、参加予定でない『南道の奴行列(3年に1度で、前は2017年)』と『芝崎のふとん太鼓(不定期で、前の参加は2017年)』の特別参加で鹿島神社の例大祭は盛り上がり、大勢の見物人たちを楽しませてくれた。

南道の奴行列は、田辺城主に任ぜられた安藤帯刀(直次)が、南部で行列を整えて入城した時の様子を模したもので、300年以上の伝統があるという。江戸時代から続く歴史ある奴行列。23人が武具や用具を携えて、掛け声とともに独特の動きをしながら進む。龍や虎などの刺繍が入った化粧まわしを腰に着けた21人が、裏に付けた鈴を膝で蹴り上げながら

音を鳴らして、迫力ある奴行列を見せてくれた！



私が一番楽しみにしていた『芝崎のふとん太鼓』は、頂にふとんを積み重ねた形状で重さが約2トンある。小学生の乗り子4人が太鼓を囲むように座り、大きな声で歌いながら太鼓をたたき、前乗りの大人が拍子木を打ち鳴らし、約70人が威勢の良い掛け声とともに担いで練った。

子供の頃、いつも家の前を通るふとん太鼓を見ては、お酒を飲み元気いっぱい担ぐ大人たちの姿が怖いと思ったが、あんな重いものを担ぐのにお酒の力でも借りないことには、とても無理なことであると、今では理解できる。有名な岸和田のだんじり祭りがTVで報道されるのを見て、いつも思い出すのは芝崎のふとん太鼓。このふとん太鼓が鹿島神社の鳥居をくぐるのに頭がつかえるため、鳥居下の土が掘り起こされていた。

ギリギリで鳥居をくぐりお宮入りした後、本殿前で三角形の金の紙吹雪が舞った。これは何を意味しているのか……。

ふとん太鼓が無事にお宮入りしたのを見届けた後、加代ちゃんと田辺に帰る電車を待っている時、芝崎会館に帰って行くふとん太鼓と遭遇。最後の最後までお祭りを楽しませてもらい、満たされた気分で家路についた。



片町の獅子舞とお囃子



奴行列

紀州五代梅



GODAIAN
五代庵

銀座店〈直営店〉

東京都中央区銀座8-2-10
誠和シルバービル1F
TEL 03-3571-5858

創業天保五年

株式会社 東農園

0120-12-5310

<http://www.godaiume.co.jp>



本の紹介 山本繁一著 ミンドロ島の日本兵 ジャングル生活12年

この本は、筆者が終戦前年の昭和19年12月にフィリピンに渡り、ミンドロ島に於いてアメリカとの戦いに敗れ、ジャングルの高地で敗走し、戦争が終わったのも知らずに日本の勝利を信じて、12年間ジャングルで生き抜いたのち帰還した日本兵の記録であります。筆者は和歌山県田辺市芳養町出身の方です。



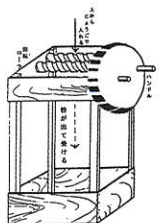
右側 山本氏

和歌山県の帰還兵では、皆さんご存じの海南市出身の小野田寛郎陸軍少尉（1922.3.19～2014.1.16）が30年もの長い間、フィリピンルパンゲ島島のジャングルで生き抜かれました。奇しくもお二人は同じく士官学校生でした。当時士官学校には、おいそれと入学できるものではありませんでしたが、お二人とも学問優秀にして質実剛健だったと想像します。またお二人とも長生きされました。

小野田氏は5年前91歳で亡くなられ、山本氏は昨年2019年6月に96歳で亡くなりました。あらためて謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今思えば軍国主義なんてまったく過去のものでありますが、戦時中は軍隊に入隊できるのはこの上ない光栄な事と考え、軍人であることを喜び、戦いに勝つために死をもって殉ずる強い意志を持って戦地に向かったことと思います。しかし、山本氏が向かったフィリピンの首都マニラはすでにアメリカ軍に奪われており、日本軍を見つければ一網打尽にされそうな状況の中、軍からの命令が下り、ミンドロ島のサンホセでアメリカ軍が誇る一大空の要塞を襲撃爆破すべく、他の日本友軍共々、意気揚々と乗り込んだ。しかし、飛行機もなく進撃は道なきジャングルを進み、難渋をきわめました。ようやく目的地にたどり着くも敵の砲撃を受け、多くの戦友が死んでいきました。

その後は敵から逃れる敗走の日々が続くことになり、その行軍は想像を絶するものでした。ジャングルの中で衣食住を確保するための大変な苦労が始まりました。食べ物は生きているものは蛇、ネズミ等何でも食しました。昭和20年12月初めに7人の仲間は生き延びるために高地において自活することを始め、それぞれの仕事の経験を活かして田畑を耕し、農耕器・衣類・酒なども自作し、やがては家も建てまし



トウモロコシ粉碎機

川口 光雄（千葉県柏市 在住）
1967（昭和42）年 田辺商業（現 神島高校）卒

た。現地人のマギヤン族とも仲良くなり、のちに振り返れば、彼らのおかげで帰国することができたと言っても過言ではないと思います。自活中、何度か戦争終結のチラシを投下されてもアメリカ軍の作戦と思い、ただただ日本の勝利を信じて生き続けました。小隊長であった山本氏は、劣勢になっても前向きに考えるよう部下に伝え、その



復員後、自分のお墓の前で

指導力は素晴らしいものでした。山本氏も小野田氏も「不撓不屈（ふとうふくつ）」の精神の持ち主でありました。茨城県桜川市真壁の五所駒瀧神社に小野田氏直筆で刻まれた「不撓不屈」の文字の石碑が鎮座しています。人生「不撓不屈」で強く生きたいものです。

そしてこの本は12年間もの長いジャングル生活を、教師ならではの筆遣いで、まるで自分も一時戦地に行ったかのような気持ちにさせられる感動の記録です。

戦争はするものではない。戦争でものごとを済ませるというような国が未だにいるのはとても悲しいことです。子供たちに夢と希望を持たせる平和な世界になることを切に願っています。



2000年 小野田寛郎氏と



「不撓不屈」の石碑

● 山本繁一氏の足跡 ●

1922年 11月25日	田辺市芳養町で生まれる
41年 12月8日	大東亜戦争開戦
43年	中部24部隊に入隊
44年	豊橋陸軍予備士官学校
44年	陸軍中野学校卒業
44年 12月	比島方面軍ミンドロサンホセ基地 攻撃隊へ
45年 8月15日	終戦
47年 2月	敗残 自活生活のため山に入る
56年 12月1日	ミンドロ島で救出され4名生還
57年	教員に復職 田辺市高雄中学校へ
58年	昌子と結婚 以来南部町北道丹河に在住
81年	母校芳養小学校長として定年退職
"	田辺市玉置病院事務長として70歳まで勤務
2019年 6月17日	娘2人、孫6人に看取られ永眠 享年96歳

半農半Xの農業ライフ (5)

森下 武子

(東京都新宿区 在住)

昭和46年卒

前回の農業ライフの報告から2年経ち、八ヶ岳の家庭菜園と千葉県山武市のわたなべ農園（息子が園主）での農業ライフにも変化が生じている。

八ヶ岳は昨年、共同で畑を借りていたお二人が高齢で畑を止めたいと言われたため、私も新しく北杜市内の高根クラインガルテンで15坪の区画を借りることにした。高根クラインガルテンは総合センター、宿泊施設、芝生広場、障害者農園、体験農園20区画、ミニ農園60区画、区画農園208区画がある市民農園（民営）である。農業インフラが整い、農機具の貸し出しや畑の整地、草刈りなど有料で依頼でき、農作業が一段と楽になる。また、畑の中に屋根付きベンチがあり、ランチや休息ができ、天気の良い日は富士山、南アルプス、北アルプスが眺められる。畑を借りている人は主に東京からの移住者と東京から日帰りまたは宿泊施設を利用して農作業に来る人である。

去年は、その新しい畑で、サツマイモ、ジャガイモ、トマト、カボチャ、ニンジン、ルッコラ、わさび菜、二十日大根、ピーマン、トウモロコシ、大葉、バジル、ペパーミント、クールミント、白菜、大根を栽培した。日当たりが良かったため、以前の畑以上に作物が良く育ち、猪や鹿、ハクビシンなどの被害にも合わなかったのも収穫量が多かった。特にトマトは驚くほど繁殖して、完熟で甘いトマトが多量に育ち、2週間に一度では取り切れず、地面に落ちるものも多かったくらいである。

八ヶ岳の新しい畑は、投入労力は少なく、収穫量が多い、苗をそこで購入できる、栽培方法などを教えてもらえる、休息時は山の景色も堪能でき、お弁当もベンチで食べられるなど、以前の畑よりメリットが多く、満足している。今は冬越しで、ニンニクと玉ねぎが育っている。ルッコラやハーブは八ヶ岳のほうが千葉より味と香りが濃い。やはり標高が高く、昼と夜の温度差がある気候が合っているのだろうか。今年もまた八ヶ岳でも家庭菜園を継続する予定である。

山武市のわたなべ農園（2300坪）の方では、息子が昨年初めに結婚したため、家事作業がなくなり、代わりに約100坪の家庭菜園用畑をもらった。ここでも八ヶ岳と同じ作物を栽培し、さらにきゅうりと生姜も加えたが、それでも100坪すべては使い切れず、3/4程度の利用である。2週間に一度行くだけなので、夏場には特に畑周辺や使っていない畑で草が大きくなり、鎌ではとうてい追いつかず、とうとう蓄電池式の草刈り機を購入した。慣れるとやはり草刈り機を使うことで草刈りが非常に楽になったので、今年は、畑の畝の間の草取りと生姜や里芋の土掛けに、私でも使える軽い管理機を購入する予定である。

生姜は、昨年からわたなべ農園で1反、私の家庭菜園で0.1反程度栽培を始めたのだが、わたなべ農園の次の基幹作物にしたいと考えて、わたなべ農園に栽培を勧め、高知の生姜専業農家から最初に教えるも受けた。栽培初年度の去年は、資金提供と販売は私と仲間が担当して事業リスクを負い、わたなべ農園は栽培委託農家として経験を積んだ。



生姜は有機栽培のため、作業の大半が草取りである。生姜の周りの草取りや土掛けは手作業で、しゃがんで立っての作業を繰り返すため、特に夏の暑い中での作業は疲れたが、お蔭で太ももと腕に筋肉がつくという褒美があった。ミネラルの土壌改良材を投入し、自家製堆肥と鶏糞主体の肥料で育てた生姜は、肥料を少なめにしたため成分が凝縮して、味と香りが濃い生姜となり、購入者も味と香りの強さを褒めてくれる方が多く、嬉しかった。ただ、大きさは小ぶりで、厚みも少ない。次の課題は1株当たりのサイズを大きくして、収量を増やすことである。また、次回は畑にケイントップ（サトウキビのチップ）を敷き、夏の草取り作業を減らしたい。



わたなべ農園の野菜は、昨年7月の長雨、9月の台風、特に9月8日の台風15号が千葉県を直撃して、被害を受けた。9月8日から13日まで電気も水も止まり、ビニールハウスが歪んでビニールも一部剥がれ、きゅうりの支えも倒れた。わたなべ農園では宅配便の野菜セット以外に、落花生、里芋、生姜、ごぼうが基幹商品であるが、基幹商品の里芋が風で葉が擦れて、葉が少なくなったり、茎が倒れたり曲がったりし、生姜も茎が曲がった。また秋も雨が多く、落花生や葉物に悪影響を及ぼすなど、去年は天候の災いが大きく、わたなべ農園の収穫高も残念ながら前年の半分程度になってしまい、農業は天候の影響が大きいことをつくづく実感している。

野菜販売で生計を立てるには、畑面積当たり売上高が高い、すなわち単価が高い作物を栽培することが必要である。生姜はその意味で単価が高く、面積当たり売上高も高い商品であり、昨年から基幹商品に育てたいと考えて導入したのであるが、半面、生姜は水に弱く、病害虫にも弱く、栽培が難しい。さらに品質の良いものを作ると同時に1株のサイズと厚みを大きくして、収量を増やすことが必要で、栽培の技術やノウハウを磨く必要がある。また、有機生姜は単価が高いが、有機生姜相応の高価格で購入してくれるバイヤーや小売店、レストラン

などの販売先の開拓も重要であり、高売上高を実現するための課題は多い。

昨年収穫した生姜は今半分弱を畑に埋めて保管している。これを春頃までに販売していく必要がある。また、今年はわたなべ農園が生姜を1反栽培し、私が仲間と0.25反生姜を栽培する予定であるが、今年は品質の良さを保ちつつ、見た目を良くし、収量を増やすことが栽培の課題となる。さらに、栽培面積が増えるため、有機相応の高価格での販売先の開拓のために有機JASの取得やパウダーへの加工などにも取り組んでいきたい。

元号・西暦換算騒ぎの一席

ひまなぼんぺい（千葉県松戸市在住）

1965（昭和40）年山口県立宇部高校卒

今から三十年前に起きたことだが、昭和から平成になっていちばん困ったのが西暦への換算だった。そもそも西暦と元号を併用するからややこしくなるのだ。

「僕も昭和の間は元号表示でもいつのことかだいたいわかったけれど、平成からあとは元号で言われても、西暦に換算しないといつだかわからないです」という（思想家）もいるくらいだ。

半年ほど前、J Rの駅でS U I C Aのチャージをしていると、隣の若い女性がイライラしながら携帯で話していた。

「おばあちゃん、西暦何年生まれなの？ 昭和じゃダメなの。分かんないと切符買えないのよ」

見かねた僕は声をかけた。「おばあさんは昭和の何年生まれ？」

「昭和二十九年生まれです」「だったら西暦一九五四年生まれだよ。僕が昭和二十一年生まれで、西暦だと一九四六年。僕より八つ若いんだね」

「そうなんですか。ありがとうございます。おばあちゃん、一九五四年だってよ」

無事に切符が買えた彼女は「助かりました」と礼を言っ立ち去ったが、晩ごはんの時に「今日、すごいおじさんが（おじいさんと言ったかもしれないが）いたのよ。西暦の数字じゃなきゃ切符が買えないのに、おばあちゃん昭和二十九年しか言えなくて困っていたら、一九五四年生まれだよってサツと教えてくれたの」なんて話で盛り上がりつつあるんじゃないかと、ひとり悦に入ったのだった。

明治は元号に1867を足し、大正は1911、昭和なら1925を足せばよかったから暗算でもできた。

ところが平成になってから、そうはいかなくなつた。1988なんてややこしい数字を足さなくちゃならない。明治だって同じじゃないかと言われそうだが、明治元年は「いや、ロツパくん、明治だよ」が染みついているからどうってことはない。しかし、平成元年が西暦一九八九年だなんて覚えようがないではないか。仕方なくエクスセルで対照表を作ってパソコンのデスクトップに常駐させているのだ。

そして訪れたのが令和だ。この先、さらに煩わしくなるなど思っていたある晩、もう遅い家に帰ってメシを作るのがおっくうだったので、駅前の食堂に寄った。

一杯飲みながら、何がきっかけだったか忘れたが、顔なじみのおじさんと「明治、大正、昭和は西暦に換算するのがラクだったけど、平成は往生したよね。令和になつてどうなるかと思うと憂鬱（ゆううつ）だよな」という話をしていた。

すると、そばの青年二人組の一人が割り込んできた。

「令和は簡単ですよ。れいわ、018を足せばいいんです。今年は今令和元年だから、2018を足すと二〇一九年、話題になつて二〇二五年問題の年は、2018を引いて令和七年となります」

「すごい！ よく思いついたね」と驚くと、「友達がネットで見つけたって教えてくれたんです」とニコリ。

恐れ入り谷の鬼子母神！ なんだか感動的な一夜だったなあ。

令和

書のなかに新たな自分を

前山 弓子 旧姓:羽山 (みなべ町徳蔵 在住)
1970(昭和45)年卒



50歳を過ぎて、夢中になれるものを見つけられたことは幸せなことです。

羽柿賀恵子先生の個展を見に行ったことが私をその道に導いてくれました。その書は今まで見たことがなく新鮮でした。先生の作品は大きな作品ばかりで、大きな筆で力強い線で書かれていました。このような書があるのかと驚きました。

それまで、子育てを卒業して、これからは自分のために何かしたいと思い、何をすればいいのかを探していた私は「これだ!」と思いました。何となく田辺市にある書道教室に通い始めたばかりで大した経験もないのに…その書は私を惹きつけました。



当時、見た目は元気そうに見えていた羽柿先生は入退院を繰り返しておられました。先生から「やりたいなら早くおいで! いつまで教えられるかわからない。」と言われ、驚きました。私にこのような書が書けるのかと不安がありましたが、そう言われて即、決心しました。

先生は墨人会というグループに所属しておられました。墨人会は全国的には少数会派で、県内で教えているのは羽柿先生一人でした。岩代在住で家も近く知人でもあったので、教えてもらうには幸いでした。墨人の書は、手作りの墨をタライやバケツに入れ、床に紙を置いて大筆で墨をたっぷりつけ、体を大きく動かして書くというスタイルでした。手本はなく、すべて自分の思いを書に託し自由に書きます。何もかも初めてでしたが、面白かったし楽しかったです。

残念なことに、先生と一緒に書けたのは4年程でした。その後帰らぬ人となってしまいました。でもその4年間は私にとって、とても充実した中身の濃い日々でした。今の私があるのは羽柿先生のおかげです。人間的にも素晴らしい方でしたし、学ぶことが多かったです。

先生は「過去にどんなにいい作品ができたとしても、そこから抜け出さなければ新しいものが作れない。無心になりなさい。そうすれば筆が書かせてくれる。」と教えてくれました。過去の作品にこだわらず、常に満足することなく、貪欲に制作する気持ちを忘れないで、ということなのでしょう。

今の私は、自分の中にあるかもしれない新しい自分を見つけるため、これからも懸命に書き続けたいと思っています。

前山 弓子さんのプロフィール

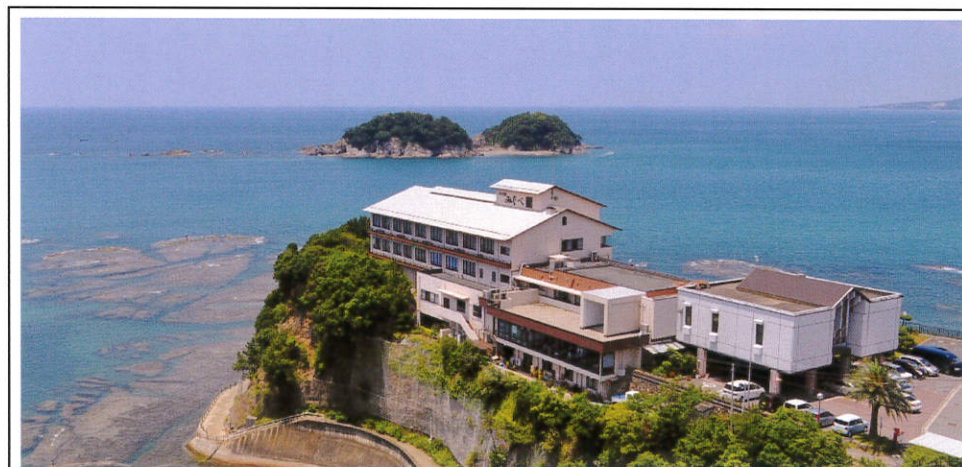
50歳で田辺市の書道教室に通い始める

53歳で書家 羽柿賀恵子先生に師事

同時に墨人会に所属

その後、京都に年に数回通って習い、今に至る

66歳で初個展



海を楽しむ宿 南紀・みなべ温泉

四人旅舎 紀州路 みなべ

〒645-0004 和歌山県日高郡みなべ町埴田1540

TEL. 0739-72-3939 (代表)

<http://www.kishuji-minabe.jp/>

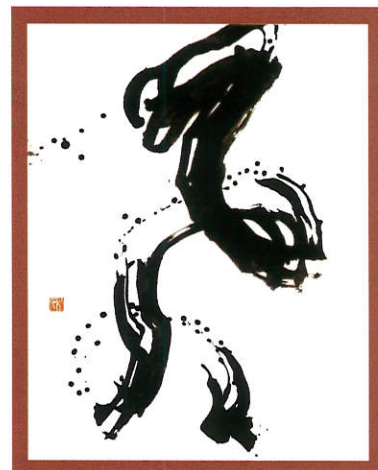
ミニ・ギャラリー



鳥 90 × 70cm



孤 70 × 90cm



風 90 × 70cm



梅 70 × 90cm



静 70 × 90cm



ギャラリー寿苑

田辺市湊30-26



遊 70 × 90cm

★会報の原稿を集めています。お気軽にご応募を！

学友会では会員の親睦に役立つ内容に心掛け、会報づくりをしております。

○テーマは問いません。文字数 400字詰め原稿用紙で1～4枚位(ワード編集・手書き可)

○ミニギャラリー オリジナル作品なら何でもOK! 今まで掲載されなかったジャンルもOK!

・油彩・水彩・写真・パステル・クレヨン・鉛筆画・水墨画・版画・絵手紙・俳画・

・ガラス絵・布絵・切り絵・パッチワーク・書(毛筆・硬筆・ペン字)・俳句・長歌・短歌・

・立体作品(・彫刻・模型・風・他)等々の作品をお待ちしています。

原稿はデータ・プリントどちらでも可。送付先は事務局楠本宛て。



第九期 新役員紹介 (平成31年4月～令和3年3月)

顧問	会計監査	幹事	会計	庶務	事務局長	副支部長	支部長
(昭和33年卒) 寺西 寛志	(昭和42年卒) 杉野 雅子	(昭和30年卒) 宮本 双葉	(昭和33年卒) 東 美津子	(昭和33年卒) 楠本 建彦	(昭和46年卒) 森下 武子	(昭和38年卒) 木村 允彦	(昭和42年卒) 山崎 春樹
(昭和45年卒) 三本 陽子	(昭和42年卒) 楠本 邦一	(昭和34年卒) 岩本 喜直	(昭和40年卒) 齋藤 文子	(昭和33年卒) 早田 早百合			

◎第8期(平成29年4月～31年3月)会計報告

単位:円

収入の部		支出の部	
前期繰越金	74,928	預り会費当期分振替	6,000
預り会費当期分受入	6,000	総会懇親会費	281,204
当期賛助会費	310,000	役員会議費	41,354
次年以降会費預り	2,000	広報会議費	24,098
総会懇親会費	264,000	会報発行費	141,465
広告掲載料受入	80,000	事務用品費	27,431
本部支援金	60,000	レクリエーション活動費	28,216
御祝儀・寄付他	105,890	通信費	113,405
受取利息	0	交通費	11,770
雑収入	0	慶弔見舞金	10,000
		雑費	66,688
		次期繰越金	151,187
合 計	902,818	合 計	902,818

◎第9期(平成31年4月～令和3年3月)予算計画

単位:円

収入の部		支出の部	
前期繰越金	151,187	総会懇親会費	320,000
当期賛助会費	320,000	役員会議費	60,000
賛助会費預り分	2,000	広報会議費	30,000
総会懇親会費	320,000	会報発行費	150,000
広告掲載料受入	100,000	事務用品費	40,000
本部支援金	60,000	レクリエーション活動費	40,000
御祝儀・寄付他	0	通信費	130,000
受取利息	0	交通費	20,000
雑収入	0	慶弔見舞金	20,000
		雑費	60,000
		次期繰越金	83,187
合 計	953,187	合 計	953,187

▼ 訃報 ▼

昨年以降、次の方々をご逝去されました。
長年東京支部のためにご協力いただき感謝申し上げますとともに、
謹んでご冥福をお祈りいたします。 合掌

谷口 俊司 前田 至美 嶋津 聿史

● ご寄付ありがとうございました ●

下記の方々からご寄付いただきました。心よりお礼申し上げます。
会のために有効に運用させていただきます(敬称略)

前田 至美 寺西 寛志 東 美津子 犬本 亮次

編集後記

今年は新型コロナウイルスの影響で、学友会東京支部だよりの発行が危ぶまれましたが、予定通りに発行することができました。

これも快く原稿依頼に応じていただいた会員の皆様と編集・印刷を担当して下さいました皆様のおかげです。感謝申し上げます。

今年は今までに経験のしたことのない新型コロナウイルス感染の世界中への拡散により感染者、死亡者が多数出ています。この拡散の影響で今年夏、日本での開催予定だったオリンピック、パラリンピックが来年に延期となりました。しかし、このウイルス感染拡散の終息の気配が見えません。一日も早い終息宣言を待ちたいと思います。

私たち東京支部が抱える最大の課題は、いかにして高齢化による会員の減少に歯止めをかけるかということと、支部運営のスタッフも高齢化しており今後の運営がますます難しくなることです。

皆さまの中で事務局を手伝ってもいいよ、という方はぜひご連絡ください。

(事務局 楠本)

編集スタッフ

木村 允彦 齋藤 文子 神田 典子 三本 陽子 森下 武子 楠本 邦一(TEL・FAX:047-341-9282)